

令和4年11月号

市場事務所便り

社会保険労務士 市場 敬將



〒381-1221

長野市松代町東条 3116-3

電話:026-278-3555

e-mail:ima@ichiba-sr.com

FAX:026-278-3540

URL:www.ichiba-sr.com

新入社員の理想の上司・先輩は、「仕事について丁寧に指導する人」 ～日本能率協会の調査より

一般社団法人日本能率協会は、2022年度の「新入社員意識調査」を取りまとめました。協会が提供する新入社員向け公開教育セミナーの参加者を対象に、仕事や働くことに対しどのような意識を持っているかを調査したもので、4月4日～4月8日にインターネット調査で実施し、545人から回答を得ています。

◆理想の上司・先輩は、「仕事について丁寧に指導する人」が71.7%で1位

理想の上司・先輩を尋ねたところ、「仕事について丁寧な指導をする上司・先輩(71.7%)」が1位で、2012年以降の調査で過去最高となりました。

一方、2012年、2014年に数値の高かった「場合によっては叱ってくれる上司・先輩」や「仕事の結果に対する情熱を持っている上司・先輩」は、今回の調査では大幅に数値が下がっています。

◆仕事の不安は、「上司・同僚など職場の人とうまくやطيعけるか」が64.6%で1位

仕事をしていくうえでの不安については、「上司・同僚など職場の人とうまくやطيعけるか(64.6%)」が1位となりました。続く2位は「仕事に対する現在の自分の能力・スキル(53.4%)」となっています。

社内の人間関係に不安を感じている一方で、社外の人間関係については「社外の人との人脈を築けるかどうか」が8.1%に留まり、社外の人脈づくりに対する不安は年々減っています。

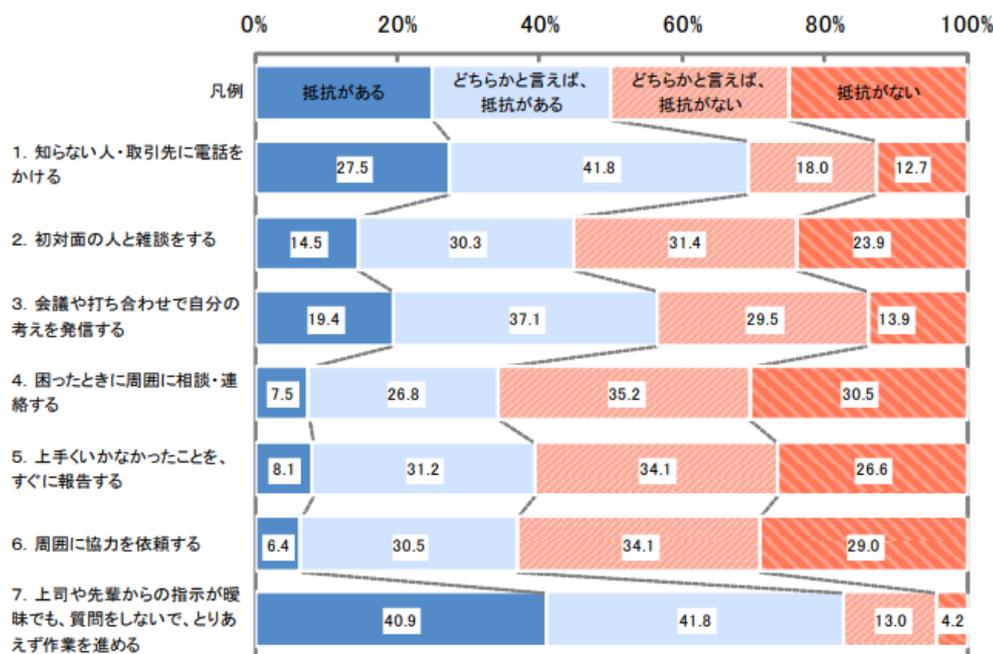
◆抵抗がある業務は、「指示が曖昧なまま作業を進めること」が1位

仕事をしていくうえでの抵抗感について尋ねたところ、「上司や先輩からの指示が曖昧でも、質問しないで、とりあえず作業を進める」ことに「抵

抗がある」(「抵抗がある」 + 「どちらかと言えば抵抗がある」) との回答が、82.7%で1位でした。

「指示が曖昧なまま作業を進めること」に対しては、8割が抵抗を感じており、質問のしやすい風土や対応が求められています。

Q. あなたにとって、下記にあげた事例は抵抗なくできますか。(上位3つ選択)



一般社団法人日本能率協会 資料より

【一般社団法人日本能率協会「2022年度 新入社員意識調査」】

https://jma-news.com/wp-content/uploads/2022/09/20220912_new_employees_2022.pdf

高齢者の人口・就業者数が過去最高に～総務省統計より

総務省は、「敬老の日」(9月19日)にちなんで、我が国の65歳以上の高齢者(以下、「高齢者」という)の人口、就業について取りまとめました。

◆75歳以上の人口が初めて15%超に

統計結果によると、高齢者の人口(2022年9月15日現在推計)は3,627万人(前年比6万人増)で過去最多に、総人口に占める割合は29.1%(前年比0.3ポイント増)で過去最高となっています。また、75歳以上の人口は1,937万人(前年比72万人増)となり、総人口に占める割合は15.5%と、初めて15%を超えました。これは、いわゆる「団塊の世代」(1947年～1949年生まれ)が2022年から75歳を迎え始めたことによると考えられます。

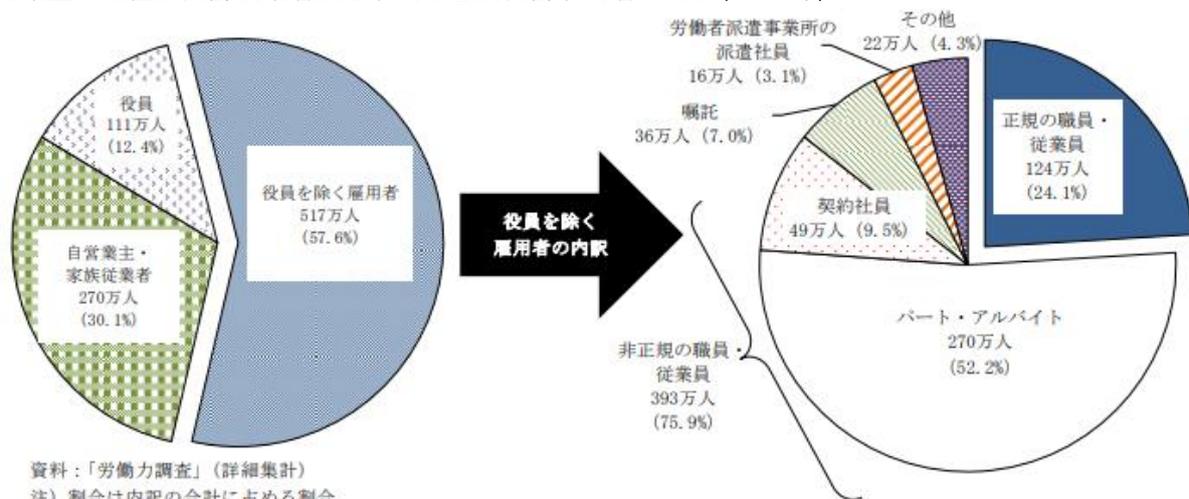
◆非正規の高齢就業者が増加

2021年の総務省の労働力調査によると、高齢者の就業者（以下、「高齢就業者」という）数は909万人（前年比6万人増）で、18年連続で過去最多となっています。

また、高齢者の就業率（65歳以上の人口に占める就業者の割合）は25.1%（前年と同率）となっています。年齢階級別では、65～69歳の就業率は、10年連続で上昇し50.3%（前年比0.7ポイント増）で初めて50%を超え、70歳以上の就業率は、5年連続で上昇し18.1%となっています。

高齢就業者を従業上の地位別にみると、役員を除く雇用者が517万人（57.6%）で最も多くなっています。さらにこれを雇用形態別にみると、非正規の職員・従業員が393万人（75.9%）となっています。なお、非正規の職員・従業員は、2011年の168万人から2021年では393万人と、10年間で225万人増加しています。

従業上の地位別高齢就業者及び雇用形態別高齢雇用者の内訳(2021年)



資料：「労働力調査」（詳細集計）
注）割合は内訳の合計に占める割合

総務省 資料より

◆世界的にも就業率は高水準

国際的にみると、日本の高齢者人口の割合（29.1%）は世界で最も高く、次いでイタリア（24.1%）、フィンランド（23.3%）、プエルトリコ（22.9%）などとなっています。また、主要国における高齢者の就業率についても、日本（21.5%）は韓国（34.9%）に次いで高い水準となっています。

高齢就業者は今後も増加することが予想されます。企業は国の政策や支援制度を活用して、いっそう高齢者の雇用対策に取り組む必要があります。

【総務省統計局「統計からみた我が国の高齢者－「敬老の日」にちなんで－】

<https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1320.html>

■■■今月のことば ■■■

日本列島は禪の文化を、環太平洋地域と分かちあっている。たがいに、さしたる交流があったとも思えない。そういう地域と、海をこえて、局部のおおいを共有しあってきた。

いっぽう、朝鮮半島や大陸中国に、禪の文化はない。日本列島には、対岸から日本海をこえ、少なからぬ人びとがわたってきた。文化的な刺激も、うけている。一衣帯水、同文同種などといった評語も、とびかわなかったわけではない。しかし、下肢の局部をつつむ下穿きの様子は、決定的にちがっていた。

.....(中 略).....

中国や朝鮮の人びとが、伝統的な袴類の下に何をどうはいていたのかは、よく知らない。ただ、局部を直接しめつける禪のような下穿きは、身につけてこなかった。禪は、裸に近いくらしをつづけてきた環太平洋地域の衣裳である。それらは極東の大陸におよばない。だが、日本列島にはとどいていたのである。

日本は東洋の東端に位置している。学問、宗教、芸術、制度をはじめ、さまざまな東洋文明のたまものが伝来した。しかし、禪をしめるという一点で、列島の文化は東洋からきりはなされている。むしろ、南洋の裸族と、誤解をされかねない言い方だが、つうじあっているのである。

『ふんどしニッポン 下着をめぐる魂の風俗史』
著 井上 章一



◆◆◆事務所よりひとこと◆◆◆

今年ももう11月になり年の瀬が近づいてきました。今年の自分の中で大きな変化は、ジムに通うようになったことです。

学生時代柔道をしていた時でさえ、筋トレやランニングなど自発的に体を動かさなければいけないことが嫌いだったのでジムは極力行きたくないと思っていましたが、今年はしっかり継続してジムに通うようになった上に、最低週2回はジムに行かないと気が済まない状態になってしまいました。

ジムに通い始めた理由は、週1回地域の柔道教室で柔道する際の怪我予防のためでしたが、今では怪我予防というよりも、『アクティブレスト』（疲労時にあえて軽く体を動かすことで血流を改善させ、疲労物質を効率的に排出させる休養方法）という言葉があるように、日常生活の疲れを適度に放出させるために通っています。ジムに通うなんて自分自身が一番驚いている変化ですが、『適度な運動』の効果を味わってしまった今では、当分辞められなさそうです。(市場玲衣)